

A・E・ハウスマン

15 永遠の恋人

(『シュロップシアの若者』15番)

若者が夜中に戸口にやってきた

恋人たちが愛の約束を果たす時刻

若者は 木陰に隠れて

そっと口笛を吹いた

「顔は見せないが

5

さあ いつも通り

ちょっとでいいから おれを両腕に抱きしめてくれ

東の空が白んでくる前に お願いだ

「ここを出て行って これから先

他の女を嫁さんなんか 絶対にしないから

10

おれが寝る相手は

おまえさんが最初で最後」

女はそれを聞き 思わず外に出て

胸と胸を合わせて横になった

夜空は明るかったが

15

樹の下は暗かった

「あなた 息しているの

胸が動いていないみたい

あたしの胸に抱きしめられて

あなたの心臓が止まったみたい」

20

「おれの心臓は 前にはドクンドクンと時刻を刻んで

恋人よ おまえの胸にも伝わっていたよな

でも 今ではおまえのために時計を止めたから

二度と動くことは無いんだ」

「あなた この<sup>したた</sup>滴ってくるのは何  
あなたの首からあたしの首に  
あたしの唇に落ちてくるのは何  
何か <sup>しょ</sup>塩っぱい味がする」 25

「恋人よ それは血だろう  
ナイフが喉を 30  
耳から耳まで搔っ切れば  
当然 血も流れるさ」

星空は明るかったが  
樹の下は夜の暗闇  
言葉の消えた静かな夜空 35  
恋人たちが愛の約束を果たす<sup>とき</sup>時刻

(山中光義訳)